

# HIO YOG

教区新報

2008.11 156号

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所  
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号  
(本願寺神戸別院内)  
電話 神戸(078)341-5949(代)  
【編集】教区基推委広報部



荘厳な法要の中に華やかな散華が参拝者の頭上にも

午後は一階のホールに移動して、初めに松村彰道教務所長より大遠忌に

多可組 正圓寺 水杉悟史

## 寺婦・仏婦二千人総参拝

### 神戸別院に五日間

昨年(2007)の全寺院別院総代参拝に続き、今年(2008)は親鸞聖人七百五十回大遠忌法要お祝い受け全寺院寺族婦人・仏教婦人別院総参拝が、去る九月二十九日から十月三日の五日間にわたって盛大に開催された。

この総参拝は本山での大遠忌と、その前年に「兵庫教区・神戸別院親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」としても修行する法要円成と長期計画を推進することを目的として実施された。

仏教婦人会の組織力は他の教化団体に比べて単位数も最も多く、ホールだけで実施する事も検討されたが、教区仏僧役員に「総代と同じように本堂で同じ法要作法で実施

して欲しい」との要望も受け、いつも使っているイスを少し幅の狭いイス五百脚をレンタルして本堂に並べた。それに併せて柱の影にはテレビモニターも六台設置して参拝者をお迎えする事と成った。

法要は午前十時二十分に「喚鐘(カアインショウウ)」の音が掛かり行事

鐘で諸僧入道、釋氏清子さん指導の仏教讃歌で各組代表の寺婦と仏婦による伝供が有り、正信偈をみんなでお勤めた。

ご本尊の周りの内陣を出動僧侶が回る正信偈の行道作法が勤まった、その直前の三奉請の毎句散華(蓮の花びらを形取った紙の花を散らす)と同時に、天井より何百枚もの散華も行われ、荘厳の中にも華やかな雰囲気があった。

法要の後、本堂で「現生正定聚」の講題で五人の講師がお話をされ、一日目から中尾教雄師(氷上西組西光寺)谷川弘頭師(神戸湊組高松寺)近藤龍樹師(加古川組普光寺)別所法宣師(神戸湊組教覚寺)足利孝之師(阪神東組安養寺)の方々、教区内全寺院、僧侶の大遠忌までも貫く共通教養テーマとして進めておられます。親鸞聖人発願の教えを五人それぞれの切り口でお話された。

午後は一階のホールに移動して、初めに松村彰道教務所長より大遠忌に



この春ダイ(橙、臭橙)の木を求め植えてみた。正月に飾られる、あのダイイである。初夏に白い花が咲き、冬に果実が実る。果実は冬を過ぎて木から落ちず、そのまま置いておくこと三年は枝についているので「だいだい(代々)」と呼ばれる。正月の飾りに用いられるのもそこから由来しているのだろう。今年、九州に出講した折に、食事の時に半分に切ったダイイが何度か添えられてあった。あざやかな橙色だからデザートと思つて手を付けずにいた。坊主さんから薬味であるときき、野菜にかけ醤油に入るとおいしいこと。酢の味がやさしいのである。早速植え、たくさん花が咲きその数だけ実もむすんだ。ところが葉も青々とし、虫もついてる様子もないのに実が一つ一つと落ちはじめ、ほんの数個だけになってしまった。調べてみると柑橘類はその木に相応できる実だけを残し、それ以外のものは落すのだそうである。「生理落下」という。

教区だより		11月・12月	
<b>11月</b>	1日(土) 別院第一土曜仏教講座 講師：山陰教区千須賀組永照寺 吉川 恭師	27日(木) 神戸別院報恩講(29日まで) 講師：大阪教区讃良組自然寺 加藤順教師	別院本堂
	2日(日) 第19回全国仏教壮年兵庫大会 ワールド記念ホール	29日(土) 仏婦総連盟若婦中央研修会	本山
	4日(火) 布教団役員会 2F会議室 14:00	<b>12月</b>	
	7日(金) 別院仏教婦人会常例法座 講師：網干組圓勝寺 福田高明師 13:30	4日(木) 第33回近畿地区仏婦大会	びわこホール
	11日(火) 大遠忌寺院活性化部会 門信徒会運動部門会議 2F会議室 10:30 2F会議室 13:30	6日(土) 別院第一土曜仏教講座 講師：東井義雄記念館館長 宇治田透玄師	
	14日(金) 清風会練習会 3F総会所 19:00	15日(月) 別院常例法座(16日まで) 講師：揖能東組浄蓮寺 竹内俊之師	13:30
	15日(土) 別院常例法座(16日まで) 講師：新宮組浄教寺 藤栄義文師 13:30	18日(木) 愛生園・光明園50周年記念集い 愛生・光明園	
		26日(金) 報恩講子どもの集い	別院

### 「法然と親鸞」大阪公演

親鸞聖人七百五十回大遠忌記念として、前進座特別公演「法然と親鸞」大阪公演が実施されます。

◆期日 平成二十一年二月七日(土)～二月八日(日) ※【休館日】二月十六日(月)

◆時間 午前の部 十一時  
午後の部 三時三十分

◆場所 国立文楽劇場(大阪府大阪市中央区日本橋一丁目十二番一〇)

◆料金 寺院特別料金八、五〇〇円(定価九、八〇〇円)

◆申込方法 組内団体観劇を予定している場合がありますので、寺院へお問い合わせ下さい。また、個人観劇をご希望の方は、劇団前進座大阪営業所(06-6331-3373)までお問い合わせください。

◆中村梅之助氏と正親隆哲組長、津山公演開演前にて

### 「リーフレット報恩講号発行」

平成二〇〇八年「報恩講号」を発行いたしますので、ご入用の方は教務所まで。

敬申

左記の方がご逝去されましたので謹んで敬申の意を表します。

- 筑波玲子(姫路西組眞教寺前坊守) 7月27日 73歳
- 大西オキヨ(神戸西組眞寺前々坊守) 8月13日、96歳
- 尾崎普賢(播磨中組教福寺住職) 8月16日、84歳
- 立川みち子(城崎組乗福寺前坊守) 8月25日 95歳
- 瑞穂光信(阪神南組常念寺住職) 9月6日 80歳
- 宇野たづ子(実栗組明寶寺前坊守) 9月12日 83歳
- 藤山窈窕子(神戸東組西方寺前々坊守) 9月15日 95歳
- 橋本妙勝(加古川組教泉寺前坊守) 9月28日 79歳
- 鷲谷 恵(佐用組光乗寺住職) 10月5日 48歳
- 辻岡昭臣(高砂組教徳寺住職) 10月16日 79歳
- 横山正俊(姫路南組善正寺住職) 10月18日 88歳

10月18日現在

### アニメDVD・VHS 親鸞さま

ねがい、そして ひかり。

全国から感動の声、続々!

親鸞聖人の90年のご生涯を、人々との出遇いや別れ、波乱に富んだ出来事を通して描き出した、壮大な人間ドラマ。子どもから大人まで楽しんでいただける作品です。

親鸞聖人750回大遠忌記念作品 アニメ「親鸞さま ねがい、そして ひかり」主題歌 「きつとまた会えるね」 作詞・作曲・歌 辛島美登里

1. きつとまた会えるね (カラオケ)  
2. きつとまた会えるね (本体1,000円)

税込価格 1,050円 (本体1,000円)

本願寺出版社 0120-464-583 FAX 075-341-7753





説の「日本史」の著者として有名な井沢元彦氏が「鎌倉時代の聖人と念仏の意義」のテーマで一時間十五分の講演をされたが、参加者はまだ聞き足りない感じであった。井沢氏の講演は、釈迦の生き方や、「生老病死」の教えから始まり、鎌倉時代の親鸞聖人の念仏に至る歴史やエピソードなどユーモアを交えて話された。お話の最後は「良くも悪くも聖人の念仏は仏教の教えの究極的到達点とも言えます……。」と述べた。

閉会式で参加者を代表し、杉本照美寺婦委員長・新屋房子仏婦副委員長・森本多鶴子寺婦運営委員・井上悦子仏婦委員長・永井政子仏婦常任委員の五名が決意表明を力強く確認し散会となった。

【決意表明】

ご本山におきましては2011(平成23)年に「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」をお迎えいたします。

その前年に修行される「兵庫教区・本願寺神戸別院 親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」の円成に向け、本日教区内全寺院の寺族婦人・仏教婦人が別院に総参拝させて頂きました。

親鸞聖人の独自の発揮である「現生正定聚」のみ教えを聞き、いま、まさに、仏の智慧を得た仲間として、このご縁を慶ばせていただきました。このお念仏のみ教えを、私たち寺族婦人・仏教婦人が自ら聞法し伝道すること、これが組・寺院・教化団体を活性化することにつながり、寺門の護持発展に寄与すると心得ております。

本日お聞かせいただいた兵庫教区の諸事業の柱である、現代社会を導き得る宗門を築き次代に伝えていく「人」の育成と、これまで宗祖の教えにご縁がなかった方々にも教えをひろめる開教事業、また少子高齢化や門徒の減少地域への過疎対策事業などを積極的に推進し、御同朋の社会の実現に向けて一丸となって邁進することを決意いたします。



凛とした舞の今村文美さん



ホールで講演の井沢元彦氏

### 近畿ブロック 講社研修を神戸で

二〇〇八(平成二〇)年十月六日(月)神戸別院本堂にて「近畿ブロック講社講師研修会」が開

催された。講社の所属は本願寺であるが、毎年、近畿圏内の講社は「愛山護法」に生きる講師の育成を強化、積極的な講社活動の推進を期するため、持ち回りで研修・協議会を行っている。

この度より「親鸞聖人七百五十回大遠忌に向けて」をテーマに近畿圏内の講社が兵庫に集い、午前中は「親鸞聖人七百五十



全体協議会で質問に立つ講社会員

十回大遠忌についての消息」を拝し、黒田真隆師(実業組安楽寺住職)より講話をいただき、午後には「現生正定聚」のお念仏をいただいたなかま」と、題してご法話を聴聞しました。

その後の協議会では、講師が抱える思い、親鸞聖人七百五十回大遠忌について議論が交わされた。明治以後、宗門の体制が変わり、講社が減少する中であっても、先人より受け継がれてきた「愛山護法」を全うする講師の姿が有難く嬉しく感じられた。

現在、兵庫教区内には二十の講があり、講師数としては三千人となる。

### 千鳥ヶ淵全戦没者 追悼法要に参拝

本年度第二十八回目を迎える東京・国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑での全戦没者追悼法要が九月十八日に勤められた。

兵庫教区より教区参与会「蓮華会」の会員を中心とした参拝団で訪れた。法要の前日より東京へ出発し、本願寺築地別院に参拝、高岡教区主催、兵庫教区協賛のもと開催された「第一〇回平和を願うつどい」に参加した。築地別院では当教区の宗会議員で阪神西組西福寺住職でもある豊原大成輪番にご挨拶とご講話をいただき「平和を願うつどい」においては文化人類学者の上山紀行氏より「生きる意味」を取り戻す」と題して講演をいただいた。

法要当日には築地別院に最朝参拝し豊原輪番のご法話を聴聞させていただき、そのうち江戸東京博物館を見学。午後からは千鳥ヶ淵戦没者墓苑に移動、追悼法

要に参拝した。法要では本願寺築地別院副住職大谷光淳新門様のご焼香の後、正信念仏傷が勤められ、時折雨足の強くなるあいにくの天候ではあったが荘厳の内に勤修された。



六角堂内のご本尊に焼香される新門様

### 教区門推協二〇周年大会 記念の大会を終えて

八月三十一日、多くの方にご参集をいただき、二〇周年記念大会が開催できましたこと誠に有難く思うものであります。またご来賓の方々にはご繁多の中にも関わらず、ご来臨いただきましたこと、本当に有難く思うものでございました。

この暑い八月になぜ大会を開いたか、もっと涼しい秋でもよいのではないかと、そんな疑問も出るかもしれませんが、これには六十三年前のあの忌まわしい広島・長崎の原爆が一瞬にして十四万人と八万人の尊い命を奪い去りました。

お法りの中から命の大切さを学ぶ私たち門推員は忘れることのできない悲しい八月であり、戦後の復興の始まりも八月。一〇年前の一〇周年大会も同じ八月三十一日、五年前の十五周年は九月一日に実施いたしました。これが、これも防災の日として命に関係の深い日でありました。

大正十二年九月一日、あの関東大震災で十五万人の命が亡くなり、昭和二十三年の関東を襲った台風で利根川の氾濫、これも六千人の尊い命が亡くなっています。

このように尊い命と深い関係のある月に思いを興し実施いたしました。記念のご法話は、現生正定聚「宗祖のよろこび」と同じよろこびを」と題して、東京教区教務所長山内教領師からいただき、信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩むことの大切さを学ばせていただきました。

その後、会員三名による体験発表があり、それぞれの心のこもった体験を発表いただきました。今後、教区門推協といえども二十五周年三〇周年、百周年と年を重ね歴史を積み重ねていく出発年であることを新たに思い、決意表明をいたしましたことでもあります。

一、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要を迎えるにあたり、推進役になる。

二、ご本尊前で自ら決意表明したことを、実現にむけ積極的な歩みをはじめ。

三、宗祖のよろこびを私のよろこびのよりどころとして、力強く生抜く姿を示す。

この記念大会は、宗祖信心歓喜のご本願をいただく大会となりました。

教区門推協会長 坂本 旭